

向けられた好意を拒絶することは苦しいことなのか? (1) —恋愛における“蛙化現象”の実存性と体験された困難さの定量的検討—

○吉田光成 (専修大学大学院)
下斗米 淳 (専修大学)

山田茉奈 # (元専修大学)

キーワード: 恋愛関係, 蛙化現象, 困難感

問題と目的

近年, インターネットを中心に恋愛時の“蛙化現象”が話題に上がっている (e.g., Otouhutaishou, 2016)。これは「ある男性に対し自分が一方的に好意を持っていると女性が理解している状況で, 実はその男性も自分に対し好意を持っていることが女性にとって明らかになると, それがきっかけとなって, 女性がその男性に対して生理的な嫌悪感を持つようになる現象 (藤澤, 2004, pp. 1095)」とされ, その話題の高まりから生態学的に体験される心的現象であると考えられる。一方, 学術的検討は藤澤 (2004) 以外に散見されない。

藤澤 (2004) は異性交際経験のある女子大学生 58 名中 40 名が体験者であり交際過程で一般的な現象であると報告している。他方, (1) 定義および対象者が女性に限られる点から女性特有の現象と仮定している, (2) この“現象”の本質的な論点である当事者の心的体験およびそこで生じる困難さが未検討である, の課題が指摘できよう。そこで本研究では, 蛙化現象を「自分自身が好意的に感じていた相手が, 自分に対し好意を持っていることが明らかになると, それがきっかけとなって, その相手に対して生理的な嫌悪感を持つようになる現象」と定義する。

本研究の目的は, 性別を限定せず蛙化現象の経験および体験内容を定量的に検討し, その実態および困難さを吟味することである。

方 法

調査対象者 首都圏内の共学 1 大学に在学する大学生 130 名 (回収率 37.90%, 男性 47 名, 女性 83 名) のうち, 蛙化現象経験者 (以降, 経験者) 32 名であった (年齢は $M=19.56$, $SD=0.95$)。

主な測定内容 (1) 蛙化現象の経験: 上述の定義を指示し, 恋愛関係での経験内容を尋ねた。(2) 蛙化現象経験時の内的感覚: 感情語およびオノマトペの全 36 項目について 5 件法で回答を求めた。

結 果

事前の相手への好意および経験時の生理的嫌悪感の程度 双方 7 件法で尋ねた結果, 相手への好意は $M=5.42$, $Me=5.00$, $SD=0.56$ (範囲: 4.00–6.00) であり, 生理的嫌悪感には $M=5.56$, $Me=5.50$, $SD=0.91$ (範囲: 3.00–7.00) であった。なお, 生理的嫌悪感が 3 または 4 点であった 2 名については体験内容に関する自由記述から生理的嫌悪感の体験や困難さが了解されたため有効データと判断された。

性差 男性 9 名, 女性 23 名であり, 女性の方が約 2 倍

多いが, 男性も経験することがわかった。

経験回数 1 度のみ 12 名, 複数回 19 名 (1 度の恋愛で経験 3 名, 複数の恋愛全てで経験 4 名, 複数の恋愛で経験有無の両方 24 名), 無回答 1 名であり, その回数は $M=3.61$, $Me=3.00$, $SD=2.03$ (範囲: 2.00–10.00) である点から, 繰返し経験することが多く 3 回程度経験することが明らかとなった。

蛙化現象経験時の内的感覚 蛙化経験直後に相手に感じた感覚の感情語・オノマトペのうち 31 項目を探索的因子分析 (重み付けなし最小二乗法・プロマックス回転) で解いた結果, 6 因子が抽出された。下位尺度得点の比較から, 揺さぶられ感覚が最も体感されることが明らかとなった。

蛙化現象経験時の意識 蛙化現象の経験内容についての自由記述より, 体験者の体験内容を測定する全 37 項目の測定尺度を作成した (Table 1)。

Table 1 蛙化現象体験尺度の全項目

1: 相手が自分を人間視していないと感じた。	21: 相手にとって自分がコントロールされる存在になると感じた。
2: 相手の自分への好意を知って悲しさを感じた。	22: 相手と自分に, 恋愛に対する考え方の違いがあると感じた。
3: 自分の考え方がおかしいのではないかと感じた。	23: 相手の気持ちに応えられず嫌われることが怖いと感じた。
4: 相手に自分を理解してもらえていないと感じた。	24: 自分が相手を勘違いさせるような行動を取ったと感じた。
5: 相手の自分への好意を知って失望した。	25: 蛙化をする自分のことを人間として足りない部分があるのではないかと感じた。
6: 相手が自分の領域に踏み込んでくるように感じた。	26: 社会的に望ましいとされる行動を自分ではできなかったと感じた。
7: 相手に対して信用を裏切られたと感じた。	27: 相手の気持ちに応えられないことで自分を責めた。
8: 相手に自分が拘束されてしまいそうだと感じた。	28: 相手の気持ちに答えられないことに罪悪感を抱いた。
9: 周囲の人々に蛙化現象の経験を批判された。	29: 周囲の人々が蛙化現象を理解していないと感じた。
10: 相手と対等ではいられなくなったと感じた。	30: 家族や友人が蛙化現象を理解してくれなかった。
11: 相手を信用できないと感じた。	31: 相手の気持ちに応えて裏切られることが怖いと感じた。
12: 相手に得体の知れなさを感じた。	32: 相手の要求に応えられないと感じた。
13: 自分自身を尊重されていないと感じた。	33: 相手が好意を寄せてくれるのは, 自分のごく一部しか見ていないからだと感じた。
14: 自分自身に絡み取られるような不快感を感じた。	34: 相手に対して自分では制御できない嫌悪感を感じた。
15: 相手に心を持たれていると感じた。	35: 相手に性的役割を押し付けられていると感じた。
16: 相手の行動・言動に怒りを感じた。	36: 相手との関係性がコントロールできないと感じた。
17: 相手の意図に疑念を抱いた。	37: 相手が自分に好意を寄せる意味が分からないと感じた。
18: 相手に自分が傷つけられたと感じた。	
19: 相手に自分が傷つけられたと感じた。	
20: 自分の目の見る目のなさを感じた。	

考 察

結果より蛙化現象は女性特有の現象ではないといえる。また全体での経験率は約 20% であり現象の一般性には疑問が残る。他方, 経験者は内的体験として揺さぶられ感覚などを, 意識的体験では Table 1 の通り自責や他者の無理解などを体験し, 半数以上が平均 3 回繰返し体験することから蛙化現象体験の困難さは明白なものと推察される。

以上の点から, 蛙化現象は特有の困難さを引き起こす確かに存在する心的現象であると判断される。今後は生起メカニズムなどの学術的検討および臨床的介入に関する議論が求められよう。

付 記

本研究は第三著者の指導のもと第二著者が 2019 年度専修大学人間科学部に提出した卒業論文のデータを第一著者が再分析したものである。